２０２５年度（令和７年度）学校評価自己評価表

加茂中学校区	校番 39	福山市立加茂中学校
	最終更新日	2025 年（令和 7 年）4 月 8 日

Ⅰ　福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

○地域と小中学校が日常的に連携を取り、９年間を見通した系統性･継続性のある加茂･山野･広瀬でのふるさと学習の内容を検討し、進めていくことが大切である。
○「地域について語れる」児童・生徒を育てるための定期的な学習を展開して欲しい。地域の側では、協力してくれる人材を発掘します。

児童生徒の現状

○１小１中という環境にあり、学習面・生活面において、つながりをつくりやすい。
○問いに対する自分の考えを、文章にしていくことに課題がある。
○友人との関わりや見方が固定化し、互いの新たな可能性や成長に気づきにくい。

育成する力 資質・能力	課題発見・解決力　コミュニケーション力　あきらめない心
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	学びを楽しむ・学びを活かす子ども 夢を語れる・自分のことを語れる子ども
中学校区として統一した取組等	①幼保小中連携 子ども・教職員の交流を通して、幼児期から小中学校までの学びをつなぐ 「幼保小・小中・幼保中」連携した教育活動の実践 ②地域とともにある学校 CS を導入し、学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実を図る 地域素材を活用した教育活動の実践

Ⅲ　自　校

ミッション

加茂中学校で学んでよかった
加茂中学校へ通わせてよかった
加茂中学校で働けてよかった　　と思える学校

学校教育目標

ともに　学び合い　高め合う

現　状

＜生徒＞
○生徒会執行部や委員長・リーダーを中心に、よりよい学校づくりに向けて、協力したり支え合ったりする姿が見られる。
○「主体的･対話的で深い学び」に係るアンケート結果がすべて市平均を上回っている。
△不登校生徒の割合が１割を超えている。
△「基礎・基本」の定着や、思考力・表現力が十分でない。
△自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できる生徒が６割を下回っている。

＜授業＞
○話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする生徒の割合が８割を超えており、対話を大切にした授業が増えている。
△疑問を引き出し解決する授業づくりをめざして研修を重ねているが、依然として教師主体の授業から抜け切れていない現状もある。

育成する力 資質・能力	課題発見・解決力	コミュニケーション力	あきらめない心
めざす 子ども像	○現状を分析したり、新たに直面した事象を把握したりするなどして、課題を見出すことができる。 ○既習の知識・経験や他者の考えなどを、比較したり、関連付けたりしながら、解決への道筋を立てることができる。	○さまざまな表現方法で、自身の考えや思いを、自信を持って発信することができる。 ○他者の考えや思いに傾聴し、多様性を尊重することができる。 ○協働する中で、新しい価値観に気づいたり、互いに高め合う関係を築いたりすることができる。	○主体的に「やってみよう」という、高い意欲や好奇心を持っている。 ○仲間とともに、多様な方法を出し合い、試行錯誤しながら、何とかやり切ろうと課題に向き合っている。 ○最後まで、あきらめない、粘り強さがある。

研究	テーマ	疑問が生まれ、多様な学びを楽しめる授業づくり
	内容等	○主体的・対話的で深い学びのある授業をつくるための教材研究と授業実践を繰り返す。 ○自分の授業を振り返り、見出した課題を解決するためのテーマを各自が設定し、他の教職員と対話・協働しながら探究する。
めざす授業の姿		○生徒達が、ともに学び合い、高め合うことで、 「？（なぜ・どうして）」が、「！（わかった・できた・なるほど）」になる授業 ○教師も生徒も、「おもしろい」と感じられる授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立加茂中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	【学力向上】 自ら学び、仲間とともに、協働して学習を創造する子どもの育成	★	新規・継続	○各学年で身に付けるべき力を確実に定着させる。 ○教師自身の授業力向上を図る。	○学期ごとに数値に基づく、生徒の実態把握を行い、改善・修正を重ねる。 ○全職員が年間１回以上の授業公開を行う。	○正答に係る数値が前学期より伸びている生徒の割合95%以上。 ○授業改善が図られたと実感した教職員90%以上。									
1	【不登校減少】 違いを認め、ともに高まり合う集団の育成	★	新規	○不登校および不登校傾向の生徒を減少する。 ○新規の不登校生徒を「0」にする。	○対策委員会での意見や SC の助言等を教職員で共有し、支援を重ねる。 ○保護者・関係機関との連携強化や、ほっとルームの活用を進める。	○不登校生徒の合計人数、前年度比80%未満。 ○安心した学校生活が送れていると実感する生徒 90％以上。（昨年94%）									
3	【地域創生】 地域とつながり、地域の活性化に貢献できる学校づくりの推進		継続	○地域に感謝し、貢献しようとする子どもを育成するとともに、地域に喜ばれる教育活動を推進する。	○地域の要望に応えたり、課題改善に努めたりする活動や、成果を地域に発信する場などを通して、貢献意識を実感できるようにする。	○「地域のよさを語れる」「地域に貢献している」と実感する生徒90%以上。									

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。